

ほけん通信

平成26年9月19日
益田翔陽高等学校 保健室

マダニ (写真はフタゲチマダニ)



「マダニ」に咬まれないように注意！！

「マダニ」の活動は春から秋にかけて盛んになります。
先日も農場の方で「マダニ」がみつかっています。駆除等で全滅させるのは難しいため、森林、草むら、藪に入る場合には咬まれないように十分な予防対策が必要です。

「マダニ」に咬まれたことにより感染する病気

○重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

SFTSを保有しているマダニに咬まれることにより感染する病気で、西日本を中心に発生が報告されており、島根県でも平成25年7月に初めて発生が確認されています。

益田保健所管内(益田市・津和野町・吉賀町)ではこれまでのところ発生の報告はありません。

- ・主な症状：発熱、消火器症状（嘔吐、下痢）で、重症化し、死亡することもある。
- ・潜伏期間：マダニに咬まれてから6日から2週間。

○日本紅斑熱

島根県では島根半島、特に弥山山地で発生がみられています。

- ・主な症状：発熱（高熱）、頭痛、関節痛、体幹部や手足の発疹。死亡することもある。
- ・潜伏期間：マダニに咬まれてから2日～10日。

※マダニではありませんが、ダニの一種であるツツガムシによって媒介される「ツツガムシ病」などもあり、症状は日本紅斑熱とよく似ており、感染してから5日～2週間で発症します。

感染しないための予防策は？

農場での活動時や森林、草むら、藪などマダニが多く生息するような場所に入る場合は 長ズボン、長袖、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくしましょう。

手袋をしたり、首にタオルを巻くなどの予防もいいでしょう。

虫よけスプレー（成分にDEEP含むもの）の中には服の上から用いるタイプのものがあり、補助的な効果があるようです。特に 農場での活動後はダニに咬まれていないか全身を確認しましょう。 ※咬まれたことに気付かない人も多い。

マダニに咬まれた場合には

すべてのマダニがウィルスを保有しているわけではありません。慌てて振り払ったりせず、落ち着いて対処しましょう。マダニ類の多くは人や動物に取りつくと、皮膚にしっかり口器を突き刺し、長時間（数日～10日間）吸血します。 無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残ってしまうことがあるため、そのままの状態でも医療機関へ受診し処置してもらう必要があります（皮膚科もしくは外科）。

また、マダニに咬まれた後に、発熱、食欲不振、嘔吐等の症状があった場合は早めに医療機関を受診しましょう。